

生活協同組合コープこうべ発行、CO-OPステーション 2016年3月号に院長の記事が掲載されました

女性のための、心と体の処方箋

带状疱疹

独特の強い痛みを伴う带状疱疹(たいじょうほうしん)は、「誰がなってもおかしくない」よくある病気です。対応によっては重症化することもあり、早期発見と適切な治療が欠かせません。そこで、加茂皮フ科医院院長・加茂統良先生に、お話をうかがいました。

取材・文/杉野佐恵子 イラスト/辻たかえ



だれにとっても身近で、
発症部位によっては合併症も。

带状疱疹とは、
どんな病気ですか？

体のどこか、それも右か左の一方だけに、神経に沿ってビリビリと刺すような痛みが起ります。初めてこの病気にかかる人にとっては、これまで経験したことのない独特の痛みです。その症状から、関節や筋肉の痛みのように感じて整形外科を受診する患者さんもおられます。痛み始めて3〜5日経つと、痛みのある部位に虫に刺されたような赤い発疹ができます。そして、皮膚が次第に帯状に赤くなり、その中に小さな水ぶくれがブツブツ現れます。「带状疱疹」という病名は、この症状に由来しています。

水ぼうそうと症状が似ています
が、関係があるのですか？

带状疱疹と水ぼうそうは、どちらも同じ水痘・带状疱疹ウイルスという名のウイルスによって起こります。

初めてこのウイルスに感染した時は、带状疱疹ではなく水ぼうそうとして発症します。ほとんどの人は子どもの時に水ぼうそうにかかります。そして、そのウイルスは、水ぼうそうが治った後も死に絶えずに、三叉神経や脊髄神経といった知覚神経の中の、神経節と呼ばれる部分に潜み続けます。带状疱疹は、こうして長年潜んでいた水痘・带状疱疹ウイルスによって引き起こされます。

きっかけは、何ですか？

潜んでいるウイルスは、ふだんは人の体を持つ免疫の力によって押さえ込まれています。ところが、免疫力は、過労やケガ、大きなストレス、病気、手術などによって低下することがあります。また、加齢も大きな原因となります。統計的には、50歳から発症が増え、60歳以降でピークとなります。持病のある人や、治療に免疫抑制剤を用いている方も、免疫力は低下するので、十分な注意が必要です。免疫力は低下すると、ウイルスが力を盛り返し、増殖を始めます。そして、神経にそって活動範囲を広げ、神経と皮膚を攻撃することによって、带状疱疹を起こします。

症状について
詳しく教えてください。

患部にできた水ぶくれは、やがて化膿してうみを持ち、だんだん乾いてかさぶた

高年齢者が多いとはいえ、10代や20代、さらには働き盛りの年代の人にも带状疱疹は見られます。年齢に関わりなく、ちょっとした過労やストレス、不規則な生活などが引き金となって、誰でも発症することがあるので、痛みの兆候に気がつけておくことが大切です。

治療の中心は、抗ヘルペスウイルス薬。
痛みを残さないためにも、早く受診を。

病気に気づいたら
まずするべきことは？

症状の軽い重いに関わらず、できるだけ早く皮膚科を受診してください。痛みと皮膚症状から診断しますが、ほかの病気がまぎらわしい場合は、血液検査を行うこともあります。また、带状疱疹は、他人にうつることはありませんが、水ぼうそうにかかっていない人にウイルスをうつした場合は、水ぼうそうを発症させてしまいます。このため、水ぶくれが乾くまでは、接する相手に十分気をつけるようにしてください。

治療や予防について
教えてください。

欠かせないのは、抗ヘルペスウイルス薬の投与です。これによって、ウイルスの増殖を抑えて、急性期の皮膚症状や痛みを和らげることができます。即効性の点滴薬もありますが、頻りに点滴を行うには入院が必要なので、特に重症でなければ錠剤を用います。この場合、効果が現れるまでに2日程度かかります。必ず指示通り続けるようにしてください。

併せて、塗り薬や、さらに、痛みの程度に応じて、非ステロイド系の消炎鎮痛剤や、ステロイド内服薬、抗うつ薬などを使うこともあります。抗ウイルス薬も痛みを抑える薬も、腎

治療後も痛みが
残ると聞きますが。

「带状疱疹後神経痛」という症状が現れることがあります。带状疱疹の皮膚の症状が治癒した後も続く痛みのことで、頻度も高く、痛みが続いたりふと動いた拍子にピンと激しい痛みを感じたり、夜間の就寝時に締めつけられるような痛みに苦しんだり、半年から数年以上も痛みが続くことがあります。これは、急性期にウイルスによって、神経が随所で傷

よく似た病気、単純ヘルペス

どちらもヘルペスと呼ばれ、带状疱疹と混同しやすい病気に、単純ヘルペスがあります。一般に带状疱疹ほど痛みは強くないものの、同じようにビリビリ、チクチクするなと思っていたら水ぶくれができてきます。くちびるやその周りにできる口唇ヘルペスをはじめ、さまざまな部位に発症します。原因となるウイルスは単純ヘルペスウイルスで、水泡・带状疱疹ウイルスとは、同じヘルペスウイルスの仲間ではあるものの別物です。単純ヘルペスは、症状が出ている人の水ぶくれ、唾液、涙などに接触することで周囲に感染します。また、带状疱疹より頻りに再発しやすいという特徴もあります。



たとなつて、約3週間ではがれ落ちます。こうした皮膚症状は、1〜2週間目をピークに4〜8週間くらいで治ります。ただし、糖尿病などの持病があったり、免疫力が大きく落ちていたりすると、長引くことが多く、帯状を通り越して、全身に水ぼうそうと同じような発疹が現れたりします。また、深く化膿してしまい、あとが残ることもあります。

痛みは、全くない場合から、夜も眠れない激しい痛みまでさまざまです。糖尿病の方や副腎皮質ステロイド薬を投与されている人の中には、最初は痛みを感じてなくても、1〜2週間後に激しい痛みを伴うことがあります。このほか、あごや耳から首にかけてできる带状疱疹は、ラムゼイ・ハント症候群といって、難聴、顔面神経麻痺や味覚障害を合併することがあります。性器にできる带状疱疹では、便秘になったり尿が出なくなったりすることがあります。

ついたり切れたりするのが原因です。最近では、带状疱疹後神経痛に効く、さまざまなタイプのよい薬が出て、複数の薬を組み合わせた、いろいろな試して最適な薬剤を探したりすることで、長引く痛みにも効果的に対処できるようになってきました。ペインクリニックでの神経ブロックも効果が期待できるので、必要に応じて信頼できるペインクリニックを紹介する皮膚科も増えています。